

3. 評価委員会就任予定者

平成 30 年 9 月吉日

一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
評価指針策定等委員会委員
就任承諾書

一般財団法人 一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
理事長 出口正之 殿

私は、貴財団が内閣総理大臣より休眠預金等指定活用団体として
指定を受けた場合には、下記、評価に関する知識・経験・能力に基
づいて貴財団の評価指針策定等委員会委員に就任いたします。

現職・役職 一般社団法人参加型評価センター代表理事

氏名 田中 博

(評価に関する知識・経験・能力)

一般社団法人参加型評価センター代表理事、(特活)ヒマラヤ保全協会元事務局長。
日本評価学会認定資格評価士。英国サセックス大学国際開発研究所大学院修了。
国際協力機構 (JICA) や(特活)国際協力 NGO センター、トヨタ財団、環境省等
で評価に関する研修講師、NGO/NPO の海外 (フィリピン、ネパール、カンボジ
ア、バングラデシュ、インド、ガーナ等)・国内プロジェクト (震災復興等) の評
価ファシリテーターを多数行う。JICA 草の根技協評価スキーム検討委員や、(特
活)日本 NPO センター、(公財)京都市ユースサービス協会で評価アドバイザーを
務めた。共著「自分達で事業を改善できるようになった！」源由理子編著 (2016)
『参加型評価～改善と改革のための評価の実践』晃洋書房、自著 (2014)「参加
型モニタリング・評価手法 MSC (Most Significant Change) ・バングラデシュ
NGO での実践から 4 つの特色を考察する」日本評価研究、第 14 巻第 2 号がある。

平成 30 年 9 月 吉日

一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
評価指針策定等委員会委員
就任承諾書

一般財団法人 一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
理事長 出口正之 殿

私は、貴財団が内閣総理大臣より休眠預金等指定活用団体として指定を受けた場合には、下記、評価に関する知識・経験・能力に基づいて貴財団の評価指針策定等委員会委員に就任いたします。

現職・役職 東京福祉大学社会福祉学部 准教授

氏名

(評価に関する知識・経験・能力についてお書きください。頁をまたいでも結構です。)

資格：評価士（日本評価学会認定資格）

学位：社会福祉学博士（学位論文：社会福祉実践プログラムへの科学的根拠に基づく参加型評価の適用）

単著『福祉実践プログラムにおける参加型評価の理論と実践』2014、みらい

共著『参加型評価 改善と変革のための評価の実践』2016、昇洋書房

共著（翻訳）『モスト・シグニフィカント・チェンジ (MSC) 手法』2013、Web.

その他、日本評価学会、日本社会福祉学会、日本環境福祉学会等で研究発表

経験：福祉事業所における継続的参加型評価（2011～2015）

日本財団助成事業の 2017 年度事業評価（2017～2018）


平成 30 年 9 月吉日

一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
評価指針策定等委員会委員
就任承諾書

一般財団法人 一般財団法人 人民都大阪休眠預金等活用団体
理事長 出口正之 殿

私は、貴財団が内閣総理大臣より休眠預金等指定活用団体として
指定を受けた場合には、下記、評価に関する知識・経験・能力に基
づいて貴財団の評価指針策定等委員会委員に就任いたします。

現職・役職 静岡県立大学 国際経済学部 教授

住所電子メール 

氏名 

(評価に関する知識・経験・能力についてお書きください。頁をまたいでも結構
です。

<(略)>

評価に関する知識・経験・能力

学会等

日本評価学会理事

キャンベル共同計画刑事司法部会メンバー

キャンベル共同計画日本代表

論文（評価関連）

津富宏 1989 対数線形モデルの矯正処遇効果分析への応用 矯正教育研究

津富宏 1990 犯罪者処遇効果研究 刑政

津富宏 1991 HLMの矯正処遇評価研究への応用 矯正教育研究

津富宏 1991 矯正処遇評価研究への LISREL の応用 矯正協会附属中央研究所紀要

津富宏 1991 イベント・ヒストリー・アナリシスの成行き調査分析への応用 矯正協会附属中央研究所紀要

津富宏 1992 サンプル・セレクション・モデリングの矯正処遇評価研究への応用 矯正教育研究

津富宏ほか 1994 職業訓練の有効性について 矯正教育

津富宏 1996 犯罪者処遇は有効である 犯罪と非行

津富宏 2007 犯罪者処遇は有効である 北澤毅『リーディングズ 日本の教育と社会 第9巻 非行・少年犯罪』日本図書センター

津富宏 1999 犯罪者処遇の評価研究（一） 刑政

津富宏 1999 犯罪者処遇の評価研究（二） 刑政

津富宏 1999 犯罪者処遇の評価研究（三） 刑政

津富宏 2000 EBP（エビデンス・ベイスト・プラクティス）への道 犯罪と非行

津富宏 2002 厳罰化の時代に 国際関係・比較文化研究

津富宏 2003 系統的レビューに基づく社会政策を目指して： キャンベル共同計画の試み 日本評価研究

津富宏 2004 エビデンスに基づく少年非行対策 警察政策学会資料『現代少年問題の諸課題（第四輯）』

津富宏 2005 実務家が、青少年の暴力予防プログラムに関するエビデンスを入手する保健医療科学

津富宏 2005 討論： エビデンス・ベイスト・ポリシーにできること 犯罪社会学研究

津富宏 2006 刑事司法におけるエビデンスの活用： 非行の予防・処遇を中心として 日本評価研究

津富宏 2006 刑事司法における社会実験： エビデンスの産出と活用 計画行政

- 津富宏 2006 企業の採用基準が分かる学生を育てるには： 企業の採用基準の認識と学生の採用基準の認識のミスマッチを埋めるために 国際関係・比較文化研究
- 津富宏 2007 学校における薬物乱用防止プログラムの有効性： 授業型プログラムを中心として 国際関係・比較文化研究
- 津富宏 2008 犯罪者・非行者に対する雇用支援による特別予防の効果－出所者を念頭において－ 犯罪社会学研究
- 津富宏 2010 「エビデンス」の利用に関する検討～技術移転と追試過程を中心に～ 日本評価研究
- 後藤あや, 有馬喜代子, 佐々木瞳, 津富宏, 鈴木友理子, 山崎幸子, 川井巧, 安村誠司 2010 カナダの Nobody's Perfect を参考にした育児学級参加者の追跡：スクリーニングと長期支援のあり方について 保健師ジャーナル
- Alain M Ngoma, Aya Goto, Yuriko Suzuki, Hiroshi Tsutomi, Seiji Yasumura. 2012 Support-seeking behavior among Japanese mothers at high-risk of mental health problems: a community-based study at a city health center. Fukushima journal of medical science.
- Aya Goto; Yuriko Suzuki; Hiroshi Tsutomi; Vinh Quang Nguyen; Tu Van Thi Nguyen; Sachiko Yamazaki; Keiko Okazaki; Tuyet Hong Thi Nguyen; Hoa Quoc Hoang; Seiji Yasumura. 2012. The Process of Adapting an Australian Antenatal Group-Based Parenting Program to Japanese and Vietnamese Public Service Settings International Electronic Journal of Health Education.
- Aya Goto, Michael R. Reich, Yuriko Suzuki, Hiroshi Tsutomi, Eiko Watanabe, and Seiji Yasumura. 2014. Parenting in Fukushima City in the postdisaster period: short-term strategies and long-term perspectives. Disasters.
- 津富宏 2016 SROI (社会的収益投資)に関する批判的考察 日本評価研究
- 山脇功次、後藤あや、水野美文、津富宏 2018 ノーバディーズ・パーフェクト育児支援に参加した母親の気持ちの変化： 質的データの事業向上への活用 保健師ジャーナル

学会発表 (評価関連)

- 津富宏 2002 犯罪政策とキャンベルコラボレーション 日本評価学会
- 津富宏 2004 エビデンスに基づく少年非行対策 警察政策学会少年非行部会
- Hiroshi Tsutomi and Shigeru Oyama. 2008. Does Cleaning up of Streets of a Japanese City Decrease Crime? A practical testing of broken windows theory Stockholm Criminology Symposium 2008
- 津富宏・尾山滋 2008 街を清掃することによって 犯罪は減るか？ 一割れ窓理論の実験的検証－ 日本犯罪社会学会大会
- 原田隆之・津富宏 2008 "刑事施設における 覚せい剤濫用治療の実施と効果検証 - Matrix モデルを中心として-" 日本犯罪心理学会

津富宏・黒川潤 2010.11.28 トランスレーショナル研究・実施研究の現状と、日本における取組み可能性～矯正保護領域を中心に～ 日本評価学会

津富宏 2015/5/30 社会分野における 昨今の「エビデンス」活用に関する批判的考察 SROI をめぐって 日本評価学会春季第 12 回春季大会

津富宏 2017/12/2 私たち実務家は 現場で エビデンスと どう向き合ったらよいか 日本子ども虐待防止学会第 23 回学術集会ちば大会

津富宏 2017/12/16 地域を強くする評価の力 社会的インパクト評価を「評価」する第 18 回日本評価学会全国大会

津富宏 2018/5/26 EBM から社会政策へ 第 19 回日本評価学会全国大会

講師

日本評価学会主催評価士養成研修講師（インパクト評価担当）

受託

「公益社団法人日本駆け込み寺」事業評価 日本財団 2017